

デュアルメッシュ®

GORE® DUALMESH®






Biomaterial



TECHNOLOGIES TO ADDRESS PATIENT COMPLEXITY

デュアルメッシュ® の主な適用用途

- 腹壁ヘルニアの修復
- 胸壁の修復
- その他ヘルニアの修復

品番	厚さ(mm)	サイズ(mm)	形状
1DLMC04J		150 × 190	楕円形* 
1DLMC06J	1.0	180 × 240	長方形 
1DLMC07J		200 × 300	長方形† 
1DLMC200J	2.0	100 × 150	楕円形* 
1DLMC201J		150 × 190	楕円形* 

* 両端が半円状にトリミングしてあります。

† 角が丸くトリミングしてあります。

使用上の注意：

デュアルメッシュ®の効果を正しく機能させるため、平滑面を臓器側に向けて使用してください。

Together, improving life



柔軟性と追従性を有するよう設計されています

100% ePTFE 素材の多孔質構造からなるシート材で、柔軟性と追従性を有するよう設計されています。また、生体適合性を有し、長期のインプラントでも劣化や変質が起こりにくいことが期待されます。

トリミングが容易です

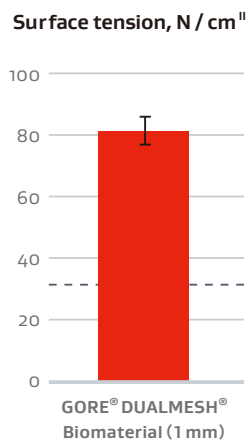
トリミングの際の裂けやほつれが少なくなるよう設計されており、さまざまなサイズや形状でご使用いただけます。腹腔鏡下手術の際も、柔軟性を有する設計となっているため、容易にトロッカーへ挿入できることが期待されます。

高い強度を持ちます

筋層の修復に用いられる組織補強材料には強度が求められ、長期間インプラントされても劣化が少なく、高い強度を保つ必要があります。

腹壁の修復に必要な強度は 32 N/cm とされています¹ が、ASTM D3786 に従って計測された破裂強度の試験では、デュアルメッシュ[®] 1 mm 厚は 2 倍以上の強度を有することが示されています²。

より高い強度が必要な場合は 2 mm 厚をご使用ください。インプラント後はコーデュロイ面の多孔質構造に組織が入り込み、周辺組織と結合するよう設計されています。



1 Data on file 2020; W. L. Gore & Associates, Inc.; Flagstaff, AZ.

References

1. Kalaba S, Gerhard E, Winder JS, Pauli EM, Haluck RS, Yang J. Design strategies and applications of biomaterials and devices for hernia repair. *Bioactive Materials* 2016; 1:2-17. <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC5365083/>

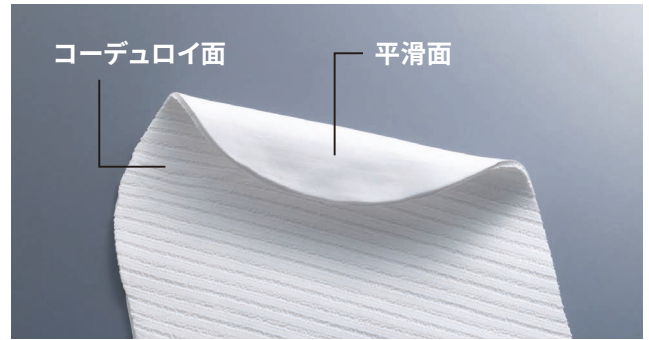
販売名：デュアルメッシュ[®] 承認番号：21700BZY00404000 一般的名称：非吸収性ヘルニア・胸壁・腹壁用補綴材
ゴア、GORE、Together, improving life、デュアルメッシュ、DUALMESH および記載のデザイン(ロゴ)は、W. L. Gore & Associates の商標です。
© 2023 W. L. Gore & Associates, Inc. / 日本ゴア合同会社 231256668-JA NOVEMBER 2023

製造元 W. L. Gore & Associates, Inc.

製造販売元 **日本ゴア合同会社**
メディカル・プロダクツ・ディビジョン

〒108-0075 東京都港区港南1-8-15 Wビル
T 03 6746 2560 F 03 6746 2561 goremedical.com/jp

「添文ナビ」アプリで
電子添文を
ご参照ください



コーデュロイ面

コーデュロイ面は、ポアサイズ 17 μm 以上の多孔質構造により、インプラント後、自家組織が速やかに浸潤するよう設計されています。さらに、表面をコーデュロイ加工 (図1) することにより生体組織との結合性をより高めるよう設計されています (図2)。

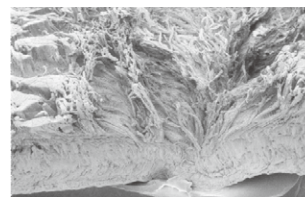


図1 電子顕微鏡写真：表面構造

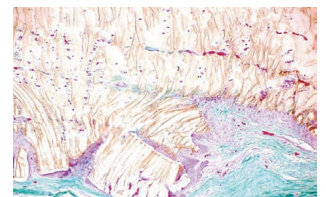


図2 染色写真：インプラント後 30 日目
(ウサギの腹腔内への留置例)

平滑面

平滑面は、3 μm 未満の微細な多孔質構造となっており (図3)、生体組織との癒着を最小限に抑えるよう設計されています (図4)。

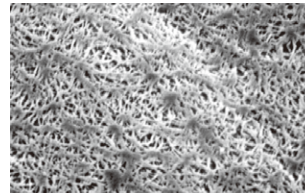


図3 電子顕微鏡写真：表面構造

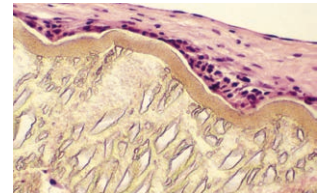


図4 染色写真：インプラント後 30 日目
(ウサギの腹腔内への留置例)

